

第 34 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日 時 2019 年 8 月 8 日(木) 10:30~12:00

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第二大会議室

1. 東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン 2019 (以下「戦略プラン 2019」という。) について

機構から、戦略プラン 2019 要旨案について説明を行った。

- 燃料デブリ取り出しの方法については格納容器の状態等の現場の状況は大きく変えないで、把持、吸引といった方法で取り出しを開始する。
- 「初号機」は廃炉作業全体最適化の観点を踏まえたうえで、安全、確実、迅速に取り出し開始が可能であることから「2号機」が適切である。

廃炉等技術委員及び海外特別委員等からの主な意見は以下のとおり。

- 放射性物質の取扱い等に関しては、国際的な基準を参考に数値目標を明確化していくのが良いと思う。数値目標を決めないと、取組の出口も決められない。
- ますます未経験な世界に入ってきたと思うところ、科学技術及び社会的な観点からも、どういう検討を経て、どういう判断で作業を決め、その結果どうなったかとういうことを記録する客観的な記録者を内部に置くべき。
- 記録を残すとしても、今後その情報を活用することを考慮すると、必要のない情報までもただ全部保存するのではなく、どういった情報を保存するのかをきちんと明確にし、取捨選択行い必要な情報だけを残していくことが必要になる。
- 廃炉作業において、規制当局との意思疎通が不十分だと、作業が計画通りに進まないことになりがちである。計画段階から規制当局と十分コミュニケーションを取るようにしてほしい。
- 廃炉作業を進めるにあたり、技術的要件や規制との関係によるもの等、不確定要素が何なのかを明確にするとともに、初めての試みには不確定要素があることを強調して記載すべきである。
- 福島第一原子力発電所の廃炉は不確定要素が多いので、戦略の中で示される計画は約束ではないということを明確にしておくべきではないか。

以上の点を踏まえて本文書の修正を行うこととし、その取り扱い等については委員長一任とした。

2. 廃炉への取組状況について

東京電力から、福島第一原子力発電所の廃炉への取組状況について、使用済燃料プールからの燃料取り出しの状況、燃料デブリ取り出しに向けた準備状況及び廃棄物対策の進捗報告があった。

3. その他

機構事務局から、機構廃炉支援部門の最近の活動実績等について説明があった。

以 上